

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

「水都おおさか森林の市2014」を開催！



【森林整備部 技術普及課】 10月5日(日)、近畿中国森林管理局及び毛馬桜之宮公園において、「水都^{もり}おおさか森林の市2014」を開催しました。今年は台風接近のため開催が危ぶまれたものの、関係者の思いが通じたのか、曇り空の下、約1万人の来場者で賑わいました。

「森林の市」は、森林の恵みや木に触れることで、森林と人とのつながりを実感し、森林・林業の役割と意義、農山村の現状について理解を深め、豊かな森林資源を次世代に引き継いでいくことを目的として、毎年開催しているイベントです。森林・林業に関わる行政機関や地域関係者(振興町会、社会福祉協議会等)、ボランティア・NPO団体、地元企業、木材関連団体等の連携・協力の下、28回目を迎えました。

今年は「木の魅力 木の不思議 桜ノ宮^{もり}で森林を感じて！」をテーマに、約50団体の出展ブースが並び、さまざまな体験コーナーをはじめ、木製品や地域の特産品等が集まりました。

近畿中国森林管理局ブースでは、水源の森ジオラマづくり体験や竹クラフト、小枝を磨く体験、木製家具・木づかい展示、国有林の取組紹介コーナーを設け、森林や木材利用について来場者に知っていただくとともに、様々なプログラムに参加して楽しんでいただきました。

また、近年深刻化する獣害について理解を深めていただくため、狩猟用具や模擬銃が展示され、シカ肉の試食も提供されました。

毎年恒例の丸太切りやつるかご編み、木や竹のクラフト体験、親子で椅子づくり体験ブースも人気を集め、オリジナルの作品づくりに皆さん熱中されていました。絵本の読み聞かせコーナーでは、大きな絵本の物語に子どもたちが聴き入っていました。

ちびっこ棟上体験では、子どもたちが活躍し、上棟後には餅まきも行われました。大阪産ヒノキ床で積み木遊びができるコーナーや苔玉づくり体験、ネイチャーゲーム、測量体験、森の香りのハンドマッサージ等、会場内のさまざまな出展ブースでは、子どもから大人まで楽しんでいただけたようです。

来場者からは、「いろんな体験ができて楽しかった」「シカ肉が意外と美味しかった」「子どもたちが生き生きしていた」「クイズが楽しかった」「森林づくりにかかわりたいと思った」「子どもと楽しめてよかった」「木で工作していると時間を忘れた」等の感想をいただきました。

**あいにくの天候でしたが、
子供から大人まで楽しんでいただき大盛況となりました！**



ニュース

宮川源流・大杉谷の「木々とシカの共生」を求めて
～ボランティア実施～

【三重森林管理署】 大台ヶ原一帯では、トウヒなどの樹



木がニホンシカの食害を受け、森林の衰退が進んでいます。三重森林管理署では、

平成12年から毎年、ボランティアを募集して、ニホンシカによる樹皮剥ぎを防ぐために木にネットを巻く作業に取り組んでいます。今年度は、10月4日（土）に、正木ヶ原に接する大杉谷国有林最上部で実施しました。

今回は、宮川流域の地域の方にも参加していただくため、大台町を集合場所としました。その結果、宮川流域の方に加えて、三重県内外の計16名の方に参加いただきました。

当日は台風が接近していましたが、現地は珍しく爽やかな晴天。トウヒとヒノキを対象に4班に分かれてネットを巻き付け、参加者は手慣れた様子で作業も順調にはかどりました。太い樹木も根際まで丁寧に施工していたき、200枚のネットを使い、約50本の立木を保護することができました。



第3回「民有林と国有林の一体的な管理経営」のための現地検討会を開催

【和歌山森林管理署】 10月1日（水）、第3回「民有林と国有林の一体的な管理経営」のための現地検討会をみやしろがわ宮城川国有林（経営モデル林）で開催しました。

当日は、有識者、県西牟婁振興局の職員（フォレスターを含む）、白浜町の林務担当課、地元森林組合の施業プランナー、国有林と隣接する民有林の所有者、当署の職



員合わせて15名が参加しました。

冒頭、牧野署長から「宮城川国有林から民有林に分岐するコントロールポイント候補地について、参加した皆さんと色々な角度から意見交

換を行い、将来民有林の森林施業を実施するために少しでも役立てられるように、有意義な検討会になることを期待します。」と挨拶がありました。

その後、林道から現地まで約1時間半かけて、国有林側から民有林へ分岐するコントロールポイント候補地について、民有林関係者との意見交換と、現在考えている全体路網計画以外での路網について、国有林、民有林の林況を各自確認しながら検討しました。

参加者からは、「路線計画にあたっては、最短距離でのルート設計では勾配もきつく、車両通行の困難が予測されるので、路網計画で可能な限り、利用面積が広がることが重要でないか」との意見がありました。

今後、当署では12月に最終会となる第4回検討委員会を計画しており、これまでの現地検討会のふり返し、課題等について関係者と意見交換することとしています。



「春日奥山古事の森」普及啓発イベント ～「奈良・吉野林業三百年」森づくりの「技」に学ぶ～

【奈良森林管理事務所】 10月18日（土）、「春日奥山古事の森」の普及を目的に、奈良県文化会館において、社寺仏閣などの伝統的建築物の修復用材について考えるシンポジウム「伝統的建築物の修復用材を育てる」が春日奥山古事の森育成協議会（会長：岡本彰夫春日大社権宮司）の主催により開催されました。

「春日奥山古事の森」は、歴史的木造建造物の修復用資材の供給に寄与するため、社寺や民間企業、関係行政機関、NPO法人等で作る「春日奥山古事の森育成協議会」と連携・協力を図りながら、200～400年というこれまでにない超長期にわたる森林づくりの象徴的な取組として、平成15年度に春日山原始林に隣接する地獄谷国有林（奈良市）に設定されています。

当日は、一般参加者や春日奥山古事の森育成協議会関係者、ボランティア団体など、約260名が参加しました。

第1部のシンポジウムでは、ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長西村康氏から、「奈良ドキュメントの意義から見た「木の文化」と題した基調講演で、日本の伝統的な木造建築物の修復方法が世界的に周知される契機となった「奈良ドキュメント」を中心に、木の文化を引き継いでいくために何が必要か、森づくりの必要性を含めて問題提起がされました。

また、清光林業株式会社社会長岡橋清元（おかはしきよちか）氏からの基調講演では、「吉野林業に見る大径材生産と古都奈良の木造文化」と題して、吉野林業300年の歴史と技術の紹介に加え、経営基盤を安定させるための路網整備やエンドユーザー現地見学会など、様々な

取り組みが紹介されました。

基調講演の後、（財）ユネスコ・アジア文化センター

文化遺産保護協力事務所長西村康氏をコーディネーターとし、春日大社権宮司岡本彰夫氏、清光林業株式会社社会長岡橋清元氏、奈良県農林部次長田中俊雄氏、近畿中国

森林管理局上席自然再生指導官才本隆司氏の4名がパネラーとなり、「伝統的建築物の修復用材を育てる」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

各パネラーからは、伝統的建築物を後世に残すための修復に必要な資材を確保するための苦労話や、建築技術の継承、木曽五木を例に木材資源の保護制度、林業・木材産業が生業として成り立つために取り組んでいる様々な施策、我々国民も木造住宅を建てることで木の文化の継承に関わりを持つことができるなど、活発な意見交換が行われました。



第2部では、春日山原始林の散策と興福寺中金堂再建現場見学の2コースに分かれ、春日山原始林散策はグリーンあすなら（奈良巨樹巨木の会）会員の案内で、平成15年度に植栽した「古事の森」の生育状況を見学した後に春日山原始林を散策しました。また、興福寺中金堂再建現場見学では、株式会社瀧川寺社建築興福寺中金堂復元工事作業所所長國樹彰氏の案内で、興福寺中金堂は奈良時代の礎石がそのまま残っており、当時の姿を復元することができたなどの説明がありました。



参加者からは、「大径木になるには途方もない年月がかかるのに驚いた。」「修復資材も大切だが、それを扱う技術の継承も必要だと思った。」などの感想も聞かれました。

当所では、今後も古事の森育成協議会と連携して「古事の森」の普及啓発に向けて取り組む方針です。

※「奈良ドキュメント」とは？

石の文化を対象とした世界文化遺産に、木の文化の修復と技術は、文化財としての「顕著な普遍的価値」を損なうものではない事を見解し、建材の入れ替わった木造建築に関しても文化遺産価値の真正性を認めようとする文書。

平成26年度 国有林モニター会議 (第2回・広島県)の開催

【総務企画部 企画調整課】 今回、管内の中国地方と兵庫県にお住まいのモニターのうち、9名の方にご参加いただき、今年度第2回目のモニター会議を10月26日（日）に、広島森林管理署管内において現地見学及び意見交換会を実施しました。

はじめに、野路山国有林（呉市）において列状間伐の実施箇所を見学しました。

列状間伐とは、文字どおり植えた木を縦の列に沿って全て伐採するもので、間伐木の決定が簡単で、伐採・搬出が容易であること等から、作業効率の向上・間伐作業のコスト削減ができることが大きな特徴です。

視察の結果、効率的な作業方法に関心をお持ちいただく一方で、「伐採した列が集中豪雨等により水道となり、土砂崩れの要因になるのではないか」、「伐採する列は等高線に沿って配置すべきではないか」といったご意見等を頂きました。



また、間伐を実施していない森林と実施した森林を比較し、「これまで資料等で林内の明るさや下層植生の状況の違いを見聞きしていたが、実際に見てみると、こんなに違うものかという驚きと、間伐の必要性を改めて感じることができた。」との感想も頂きました。

このほか、富田広島森林管理署長からは、今年8月に広島市で発生した山地災害について、早期復旧に向けた取組を職員全員が一丸となって進めていることへの説明に、各モニターの皆様は真剣に耳を傾けていただきました。

次に、大積山国有林（呉市）では、現代の林業において、造林、保育、素材生産等の施業を効率的に行うためのネットワークであり、最も重要な生産基盤である「路網」をテーマとして、林業専用道の施工地を見学しました。なお、林業専用道とは、普通自動車（10トン積程度のト



ラック）や林業用車両の走行を想定した道であり、路網の一部を構成するものです。

また、広島森林管理署で行っている、「鉄鋼スラグ」を活用した軟弱路体の改良、維持管理等のコスト削減に向けた林業専用道の技術開発の取組についても知っていただきました。（鉄鋼スラグとは、鉄や鋼を製造する工程で生成されるものをいいます。）

その後、広島森林管理署において意見交換を行いました。意見交換では、

- ・木材のマテリアル利用による利用拡大を進めて欲しい。
- ・木質バイオマス発電による安定的な電力供給に期待している。
- ・木材の利用にあたっては、ハウスメーカー等と連携し、もっとPRする必要がある。
- ・モニター会議等のミーティングを各署単位で行って欲しい。
- ・次世代の未来を担う子供たちに、もっと情報発信すべき。
- ・やさしい言葉を使った説明に努めて欲しい。
- ・産業を創出するコーディネーターの役割を担って欲しい。

などのご意見をモニターの皆様から頂いて、活発な意見交換が行われました。



今回の会議で得られた貴重なご意見・ご要望については、今後の国有林野の管理経営に反映させるよう努めていきたいと考えています。

参加いただきましたモニターの皆様には、大変御多用のところ御出席いただき、貴重な意見等を賜りましたことについて、紙面を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

「伐採・植付一貫作業下でのコンテナ苗等の活着・生育実証」とシカ被害対策

～研究の成果と課題についての現地検討会を開催～

【森林整備部 技術普及課】 近畿中国森林管理局では、独立行政法人森林総合研究所関西支所と共同で取り組んでいる「ヒノキ実生コンテナ苗による低コスト再造林技術の開発研究」及びこれまで研究されてきた「シカ被害対策」の成果と課題を民有林への普及を図るため、10月9日（木）～10日（金）に岡山県新見市において、現地検討会を開催しました。

植栽時期を選ばず高い活着率や初期生長が期待されるコンテナ苗等を用いた低コスト造林技術に対する関心が高いことやシカによる森林被害が深刻化し、林業経営における大きな課題となっていることから、当森林管理局管内の府県担当者、府県森林・林業研究機関担当者、種苗組合関係者など、約50名の参加がありました。



1日目は、吉永（独）森林総合研究所関西支所長の挨拶の後、青木近畿中国森林管理局長が、民有林と連携した施業の実施、森林・林業

技術者等の育成、低コストで効率的な作業システムの提案・検証などを通じて、民有林の経営に対する支援等に積極的に取り組むとの開会挨拶を行いました。

その後、（独）森林総合研究所関西支所から「コンテナ苗の活着・生育実証研究の成果と課題」、「シカ被害対策研究の現状と課題」についての説明、林野庁及び近畿中国森林管理局から「一貫作業システム」「コンテナ苗生産技術」等について情報提供を行い、意見交換に入りました。その中では、コンテナ苗普及の考え方や種苗に関わる関係者の育成、今後の成果への期待などの意見やシカ被害対策について、モニタリング調査は府県を越えた広域的な調査が必要との意見がありました。

また、2日目は、三光山国有林において、現地検討を行いました。三光山国有林では、（独）森林総合研究所関西支所と共同で試験地を設定し、コンテナ苗などを季節別（8月、10月、5月）に植栽して活着状況や生長量調査を実施しています。また、無下刈区を設定し、

苗木と競合関係にある雑草等が繁茂する状態で、ヒノキコンテナ苗の生長量、生存率について、下刈区との比較を進めています。

当日は、試験地から掘り取った苗木により、生長量や発根状況等の説明を行い、試験地を視察しました。コンテナ苗や普通苗等を季節別に植栽した箇所で活着状況等の確認を行い、参加者からは、一定期間経過後に再度現地を確認したいとの声が聞かれました。



近畿中国森林管理局では、引き続き試験成果の民有林等への普及・定着に努めていきたいと考えています。

第25回ふれあい森林教室開催！

【島根森林管理署】 10月10日（金）、吉田国有林の「安寿の森吉田」において協定相手方である地元敬老会「吉田寿会」の協力得て、安来市立南小学校の5年生15名を迎え、ふれあい森林教室を開催しました。

当日は安来市役所や吉田交流センターの皆さんにも参加・協力していただきました。



まず、熊野島根森林管理署長から「森林に親しみ、森林の働き、環境について学んでい

ただき森林に興味をもってください」との挨拶で始まり、午前中は、山桜、モミジの記念植樹と職員によるパワーポイントを使った電子紙芝居と、昔ながらの自転車の荷台に乗せた紙芝



居で森林の働きについて学びました。

その後、林内の遊歩道を散策し、樹名板を見ながら児童が大きな声で読み上げ、職員から樹木の名前の由来など聞いたり、ネイチャーゲームをしたり普段あまり見ることの出来ない風景や森林の中で樹木に触ったり、匂いをかいだり、五感をフル回転させ自然と触れ合っていました。

昼食には、吉田寿会の皆様に地元の野菜を使った豚汁を作ってくださいました。木育だけではなく、食育も意識した昼食となり、皆で美味しくいただきました。

午後からは、シイタケの植菌体験を行いました。自分で持ち帰るほど木を作るとあって、太い木を選ぶ児童や、大変だからと細い木を選ぶ児童など様々でしたが、寿会の皆様に手伝っていただき、使い慣れないノコギリに悪戦苦闘しながら、約90センチに原木を切りそろえ、各自がドリルで空けた穴に種駒を打ち込み、名札を取り付けました。出来上がったほど木は学校で一定期間保管し、その後、児童が家に持って帰ることになっています。



その後の木工教室では、桜の枝を組み合わせで作ったフォトスタンドや輪切りを利用したキーホルダー作りに取り組み、感性を活かした個性豊かな作品が出来上がり、それぞれの作品を手に満足した様子でした。

最後に児童代表から「学校で森林について勉強しているが、実際の森林での体験でたくさんのが学べました」とお礼の言葉をいただきました。児童達には、今回の自然の中での体験等をきっかけに、今以上に森林、林業に興味をもってもらえればとの願いをこめて閉会しました。

お知らせ

森林のギャラリー(局庁舎1階)

【11月の展示スケジュール】

テーマ：自由展示

11/17～11/21 エコロジー似顔絵展

【似顔絵「似ラックスクラブ」】

11/25～11/29 アトリエはなか作品展

【ハンディクラフト・アトリエはなか】

見て・さわって・樹木と友だちになろう「秋」

～楽しい秋のクラフトづくり～

シリーズ第3回目「秋」。

「木と緑の相談室」では、今年は「秋」のイベントを開催します。森林インストラクターと一緒に秋の公園を散歩しながら、この時期の木の不思議を発見しましょう！そして、秋ならではのクラフト作品を一緒に作りませんか？

＊ 日時 11月24日(月・祝)
10時～12時・13時半～15時半

＊ 募集人員 40名(午前午後各20名)

＊ 募集締切 11月20日(木)(定員になり次第しめきります)

＊ プログラム

秋の公園を楽しもう・クラフト工作(ミニ・リース作り)
丸太切り体験とパズルづくり(希望者)

＊ その他

参加費は、500円です。(材料費・保険料)

駐車場は、ございません。

小学2年生以下のお子様は、保護者同伴をお願いします。
クラフトを十分楽しんで頂くため、丸太切り体験希望の方は、申し込み時にお知らせください。

＊ 応募先・問い合わせ先

近畿中国森林管理局 技術普及課

TEL：06-6881-3484 FAX：06-6881-2055

HP：<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/sodansitu/index.html>

花草木

今月の花草木は「ススキ」です。

ススキは、イネ科ススキ属の植物で、「茅」(カヤ)と呼ばれる有用植物の一つで、日本全国に分布し目当たりの良い山野に生息しています。

かつては「茅」と呼ばれており、農家の茅葺屋根(かやぶきやね)の材料となったり、家畜(牛、馬等)の餌として利用していました。

筆者の実家では牛を飼っているため、餌としてススキを利用していますが、幼少の頃は毎年この時期になると家族総出で刈り入れを行っていました。

ススキの種子には白い毛が生えて、風によって飛びますが、刈り入れの時は、雪が舞うように種子が飛び、それが首や袖口に入り込んで大変痒かった思い出があります。

十五夜の月見には、萩(ハギ)とともにススキを飾ることが多いようですが、沖縄地方には、ススキの葉を環のように結んで魔除けとする風習があるそうです。

ススキに関連する地名では、北海道札幌市の「すすきの」、神奈川県横浜市の「すすき野」、東京都の「日本橋茅場町」があります。

花言葉は、「活力」「精力」「心が通じる」「隠退」です。

シリーズ 保護林 第17回

近畿中国森林管理局の保護林

きじややしき

木地屋敷敷ブナ植物群落保護林 [円山川森林計画区]



ブナ



コシアブラやリョウブなども生育する林内



ブナの穴徑木

木地屋敷敷ブナ植物群落保護林は、兵庫県香美町に位置しています。当保護林は但馬山地における代表的なブナを主体とする高齢天然林の保護を目的として設定しており、面積は23,67haで、水源かん養保安林などに指定されています。

当保護林の植生は、保護対象樹種であるブナが林冠を形成するほか、コシアブラやタカノツメ、チシマザサなどが見られます。

【木地屋敷敷ブナ植物群落保護林に生育する植物】

◎植物：ブナ、コシアブラ、タカノツメ、リョウブ、マルバマンサク、ミヤマシキミ、タンナサワフタギ、チシマザサ、ヤマボウシ、ユズリハ、ヤマツツジ、タムシバ、アセビ、イヌシデ、アカシデなど

【保護対象樹種】



ブナ

Fagus crenata Blume

【木地屋敷敷ブナ植物群落保護林へのアクセス】

◎車・・・国道482号線から県道258号線を経由、三川林道のぼり、登山口にアクセスします。

◎車・・・登山道等は整備されていないため、注意して登山するようにしてください。

【保護林及び国有林内での注意事項】

★国有林内の動植物の捕獲、採集はできません。

★国有林内では火気厳禁です。林内では禁煙にご協力ください。

★自然環境の保護と安全な利用のために、歩道等を外れないようにお願いします。

★林道は幅が狭い未舗装の所がほとんどです。落石の危険性もあります。注意して通行してください。

木地屋敷敷ブナ植物群落保護林

